

## 東京五輪テロ想定 国民保護実動訓練に参加



現地調整所の神奈川地本L O



警察・消防・第4施設群による  
合同現場除染



第1特殊武器防護隊の除染車  
による現場除染



第4施設群のトラックによる  
被災者搬送



DMAT・医療チームによる  
応急救護



消防による負傷者の救出活動

神奈川地方協力本部（本部長 高田 充一海佐）は、2月3日（火）、相模原市南区の相模原ギオンスタジアム（相模原市麻溝競技場）において行われた、相模原市で初の国民保護実動訓練に参加した。

訓練は、同スタジアムが2020年東京五輪のサッカー競技キャンプ地として選ばれ、公開練習中に爆発物が爆発、サリンがまかれ多数の負傷者が発生したという想定で行われた。

実際にサッカーJ3のSC相模原所属の選手が試合を行い、観客役の住民らが見学中に爆発が起きたという状況で訓練が開始され、市や県警、陸上自衛隊など8機関約300人が参加し、救護活動や現地調整所の運営訓練を行った。

神奈川地方協力本部からは、連絡調整要員が現地調整所において関係機関との情報共有や役割分担などを確認した。また、この地域を担当する第4施設群（座間駐屯地）や第1特殊武器防護隊（練馬駐屯地）が、警察・消防と合同で除染活動を行い、連携要領を検証した。

神奈川地方協力本部は、「今後も、自治体が行う国民保護訓練等に参加して、関係機関等との連携を深め、即応態勢を向上していきたい」としている。

## 2日間にわたり陸上・海上自衛隊を体験！ 三浦市立南下浦中学校の「総合的な学習の時間」を支援



レーダー器材の説明

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 大里3海佐）は、2月4日（水）、陸上自衛隊久里浜駐屯地で、2月5日（木）、海上自衛隊横須賀教育隊で行われた、三浦市立南下浦中学校の「総合的な学習の時間」を支援した。

久里浜駐屯地では、基本教練の体験やレーダー器材の説明を始め、暗視装置や無人偵察機の見学が行われた。また、護身術では、ユーモアを交えた実用的な教育が行われ、生徒からは、「とても参考になった」という感想が聞かれた。

翌日は横須賀教育隊に場所を移し、ロープワークを体験したが、始めは悪戦苦闘していたものの、理解が早く、すぐに上達していた。

横須賀地域事務所は、「今後も、「総合的な学習の時間」を積極的に支援し、自衛官募集に繋げて行きたい」としている。